

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 3月 12日

事業所名 発達支援ルームAQUA

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	0	グループに応じ、近隣のスポーツ施設等を利用している。	継続して取り組みたい。
	2	職員の配置数は適切である	9	0	0	子供達が怪我なく安全に思いっきり身体を動かして遊べるように、人数に余裕を持って配置している。	制度上の人員は満たしているが、実務レベルで適切かどうかの指摘があり、今後、業務内容等の見直しを検討したい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	5	2	入口とびらの段差が少しあるがスタッフ介助でサポート可能。扉がすぐ閉まらないようにストッパーを作成。	利用者に応じ、バリアフリー化等について検討する。マットがめくられて転びやすかったり、高学年の活発な子の活動ではスタッフが利用者の動きについていけないときがある。滑り止めマットを敷き詰めるなどして対応したい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	2	0		全職員の意見を反映出来るような体制作りが必要であると認識し、取り組みたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1	0	意見箱を設置し保護等の意見の把握に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2	0	HPIに公表している。	公表しているが、スタッフ間での共有が不十分なので、会議等で周知の徹底を図りたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	5		第三者委員会の設置について今後の検討課題とする。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	0	今年度は新型コロナ対策として、ZOOMを活用したオンラインの症例検討(外部講師)を実施した。	スタッフの専門性や個別の関心に合わせた研修会(特に症例検討)の計画・立案に努めたい。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	0	専門職を配置し、検査などのアセスメントに従事させている。	継続する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	0	0	必要なアセスメントツールを適宜組み合わせ使用している。	継続する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	0	毎日ミーティングを実施している。	継続して実施する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	0	子供が楽しめる活動を多く取り入れると同時に、同じ活動の繰り返しにならないように他のスタッフの意見も取り入れながら活動内容を検討している。また、子どもからの希望も取り入れて立案している。	遊びが同じになりやすくバリエーション増やしたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	5	0	子供の能力や特性に応じて、野外活動等を実施している。	利用者によっては不足もあるかもしれないため、さらなる充実に向け取り組みたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	0	個別活動と集団活動それぞれのメリット・デメリットを踏まえた上で、支援計画の作成に努めている。	特性に応じて、実施出来ているケースと、そうではないケースがある。対象児の実態に応じ柔軟に調整したい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	0	朝礼・昼ミーティングにて毎日確認している。	継続して実施する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	0	終礼にてふり振り返り・ヒヤリハットの報告を行っている。	時間的に十分でないとの意見がある。別途時間等を設け、共通認識を図りたい。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	0	毎日、支援の振り返りを行い、次回に繋げている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	2	0	子供の状態の変化や保護者のニーズを適宜取り入れられるように努めている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8	1	0		対象児により異なるが、さらなる充実に向け、取り組みたい。また、支援ガイドラインについて職員の理解を深められるように研修会などを実施し、さらなる充実を図りたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1	0		可能な限り参加しているが、全てとは言えないため、今後は出来るだけ参加できるように努めたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	3	1	送迎を行っていない。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2	4	該当児なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	3	1		対象児により異なるが、さらなる充実に向け、取り組みたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	6	0	必要に応じて、移行先への情報提供等の支援を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	5	0	発達障害者支援センター等が主催する研修会等に参加できるように努めている。今年度は県外の児童発達支援事業所の専門家を外部講師に招き(ZOOM)研修を行うことができた。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	1	8	コロナ禍もあり、実施できていない。	事業所として交流の機会を持つか否か、今後の課題である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	3	1	管理者等が参加している。	管理者等が参加しているが、職員への周知が不十分である点は今後の課題である。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	0	保護者が毎回来所しているため、その場で話をするように努めている。	新型コロナ対策として保護者の施設内への立ち入りを制限していることもあり、十分に情報交換することが難しい。人員配置を工夫したり、相談支援なども活用して対応したい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	3	2	特定のプログラムは実施していないが、子供への対応等について個別に適宜相談を行っている。また、サポートブック作成を通し、子どもの特性理解に向け取り組んでいる。	ペアレント・トレーニング等の実施については、保護者のニーズを把握し、可能な限り対応していきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	0	契約時に個別に説明するとともに、重要事項等は事業所内に掲示してお伝えしている。	継続して取り組みたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1	0	来所時に気になることを連絡票を記入してもらっている。また、子どもに気になる様子がある時には積極的に声かけし、保護者の悩み等に対応している。	継続して取り組みたい。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	5	グループ活動では、保護者間のピアカウンセリングの要素を意識する場合もある。また、保護者向けの勉強会を行っており、その中で保護者同士のつながりを保障していると思う。	年齢や特性別の勉強会等の開催に合わせ、保護者間の交流の機会を増やしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	0	相談箱を設けて対応している。苦情がある時は、管理者を中心に迅速に対処するとともに、別途時間を設けて話を聞くなどの対応をしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	4	3	必要に応じて一斉メール等で行事予定を伝えている。会報はないがチラシや張り紙がある。特別プログラムはその都度紙面等でお知らせしている。	一斉連絡は書面の配布・掲示やメールだけでは不十分であり、連絡ツールについては検討が必要である。報告事項は、特定のグループや活動に応じ限られた状態である。さらなる発信の必要性について検討したい。
	35	個人情報に十分注意している	9	0	0	今後も職員への周知徹底を継続していきたい。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1	0	それぞれの子どもや保護者の特性について職員間で共有し、適宜対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	6	実施していない。	地域の福祉祭り等での、ポスター展示等による周知は実施してきているが、地域の方を招待するような行事等は行っていない。当事業所の活動を理解してもらえるような遊び体験教室などを開催できるか検討したい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	0	0		全ての保護者に周知することはできていないようなので、今後周知の仕方について検討する。
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	0	年2回、定期的に避難訓練を実施するとともに、その様子を事業所内に掲示している。	継続して実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	0	年間行事で研修を設定し、周知徹底を図っている。	虐待防止の観点から、保護者へのサポートについても今後、検討したい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	3	2	該当児なし	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	2	定期的な食事の提供は行っていない。	調理活動の事前に確認しているが、好き嫌い(偏食等)を含め、更に丁寧な把握が必要だと考えられるため、活動立案に合わせ実施する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	3	0	事例集はないが、毎日のミーティングでヒヤリハットがあった場合報告して共有している。	